

文学でシステム？ - 学生の主体性を育む教育方法の探究 -

アルフレッド・テニスの詩「シャロットの女」を システムで分析、みんなで創作するワークショップ

教室でより活発な学生の参加を求める授業運営をしてみたい、
学生が自ら考えるきっかけとなるような教育をしてみたい、
文学テキストを活用した参加型の授業をしてみたい、

そのような授業運営に関心をお持ちの方、
ぜひ、このワークショップに参加なさってみてください。
創作に関心のある方、文学を論じたい方、学生さんも大歓迎です。

教養研究センターでは、学生の主体性を引き出すような学びの方法をプログラム化する
研究を推進しています。

今回、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 (慶應 SDM)に
ご協力をいただき、文殊の知恵を寄せ合い、「分析」から「創作」へと導くワークショップを
企画しました。

皆様のご参加をお待ちしております。

使用テキストは岩波文庫『対訳テニス詩集』西前美巳編「シャロット姫」

日時: 11月3日(土) 13:30 ~ 16:30

場所: 日吉 来往舎1F 103 / 104

対象: どなたでも可 教職員・学生・社会人

申込: 教養研究センターHP <http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/>

参加希望者は、**事前にお申し込み**ください。

講師: 保井俊之

(大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授)

不破有理

(経済学部教授・教養研究センター所長)

